# 介護サービス施設・事業所調査の推計方法

## (1) 詳細票

## ①結果の推計

各都道府県kにおける詳細票のある属性を持つ者の総和の推計値 $\hat{X}_k$ は以下のように推計した。

$$\hat{X}_k = \sum_{j \in \omega} \frac{N_{kj}}{n_{kj}} X_{kj}$$

ただし、

 $N_{kj}$ :都道府県k、層jの基本票回収事業所のうち活動中の事業所数

 $n_{ki}$ :都道府県k、層jの詳細票回収事業所のうち活動中の事業所数

 $X_{kj}$ :都道府県k、層jの詳細票回収事業所のうち活動中の事業所におけるある属

性を持つ者の数

また、全国における推計値がは各都道府県の推計値の合計とした。

即ち

$$\hat{X} = \sum_{k} \hat{X}_{k}$$

(注1) 通所介護は以下のとおり層化している。

層 j=1 前年調査で得られた名簿に記載された事業所

2 当年名簿に記載された新設の事業所

$$\omega = \{1.2\}$$

(注2) 訪問介護は以下のとおり層化している。

層 i=1 前年調査で得られた名簿に記載された事業所 利用者数 1~30 人

2別利用者数 31~60 人3別利用者数 61~100 人

5 カスタ 利用者数不詳

6 当年名簿に記載された新設の事業所

 $\omega = \{1, 2, \dots, 6\}$ 

(注3) 介護予防支援は以下のとおり層化している。

層 j=1 前年調査で得られた名簿に記載された事業所 利用者数 1~80 人

2n利用者数 81~150 人3n利用者数 151 人~

3n利用者数 151 人~4n利用者数不詳

5 当年名簿に記載された新設の事業所

 $\omega = \{1, 2, \dots, 5\}$ 

(注4) 居宅介護支援は以下のとおり層化している。

層 j=1 前年調査で得られた名簿に記載された事業所 利用者数 1~35 人

6 当年名簿に記載された新設の事業所

$$\omega = \{1, 2, \dots, 6\}$$

(注5) 通所介護、訪問介護、介護予防支援及び居宅介護支援以外の抽出を行わないサービスについては層化を行っていない。

$$\omega = \{1\}$$

# ②標準誤差の推計

抽出を行った4サービス(上記①(注1)~(注4)で挙げたサービス)における中心的な職種(※)の従事者数及び常勤換算従事者数の推計値について、標準誤差の推計値は以下のとおり求めた。

## (※) 中心的な職種

通所介護:介護職員(介護職員及びその内数である介護福祉士)、看護職員(看護師、准看護師)

訪問介護: 訪問介護員(訪問介護員及びその内数である介護福祉士)

居宅介護支援:介護支援専門員

介護予防支援:専門職員

各都道府県kにおける推計値 $\hat{X}_k$ の分散の推計値は次式で与えられる。

$$\widehat{V}(\widehat{X}_k) = \sum_{j \in \omega} N_{kj}^2 \left( \frac{1}{n_{kj}} - \frac{1}{N_{kj}} \right) \operatorname{Var}(X_{kj})$$

ただし、

$$Var(X_{kj}) = \frac{1}{n_{kj} - 1} \sum_{s=1}^{n_{kj}} (X_{kjs} - \bar{X}_{kj})^2$$

$$\bar{X}_{kj} = \frac{1}{n_{kj}} \sum_{s=1}^{n_{kj}} X_{kjs}$$

 $X_{kjs}$ :都道府県k、層j、事業所sの従事者数又は常勤換算従事者数

したがって、 $\hat{X}_k$ の標準誤差の推計値は

$$\sqrt{\widehat{V}(\widehat{X}_k)}$$

であり、標準誤差率の推計値は

$$\frac{\sqrt{\hat{V}(\hat{X}_k)}}{\hat{X}_k}$$

で与えられる。

また、全国における推計値 $\hat{X}$ の分散の推計値は

$$\hat{V}(\hat{X}) = \sum_{k} \hat{V}(\hat{X}_{k})$$

で求められ、 $\hat{X}$ の標準誤差の推計値は

$$\sqrt{\hat{V}(\hat{X})}$$

であり、標準誤差率の推計値は

$$\frac{\sqrt{\hat{V}(\hat{X})}}{\hat{X}}$$

で与えられる。